

出会い

武田一子

武田助産院(愛知)

桜井幸子さん。「りれ一随筆」をタッチしていた
だいてありがとう。光栄です。

20数年前、あなたと熱く母子保健を論じていた
頃が、なつかしく鮮明によみがえりました。助産
所を開業していた私たちは、ともに夜も昼もない
忙しい毎日でした。自然分娩を守るのは助産婦し
かない。しかし急激に医療が発達するなかで、
開業助産婦の先行きに少なからずの不安を感じて
いた私たちでした。

開業助産婦の灯を消さないためには、どうして
ももう1つの柱として、母子保健指導を採算事業
として確立しなければならないと、幾度か夜を徹
して語りあったものでした。

桶谷先生の噂を聞いて

私が桶谷先生の噂を耳にしたのは昭和50年頃。
その頃私は、20年近くお産をしていて、時折り出
会った重症の乳房トラブルには、なす術もなく、苦
しんでいました。乳房マッサージは痛いのが当然
と考えていて、お母さんを叱ったりなだめたりし
ながら痛いマッサージをするものの、その効果は
重症のものにはほとんどゼロでした。

致し方ないことと諦めてさえいたのですが、富
山県の高岡に桶谷先生とおっしゃる、痛くなく、
どんなトラブルも見事に解決されるすごい助産婦
さんがいるという噂を聞きつけ、半信半疑ながら
高岡を訪れました。

待合室一杯のお母さんたち。見学の助産婦も多
くムンムンする部屋のなかで先生の手技に接し、
驚きと感動が、じわじわと私の体のなかに込み上
げてきて、それは今なお私の体中に鮮明に生きつ
づけています。

私を貫いた感動

先生の手技を受けているお母さんは誰もがにこ
にこし、その表情にはうっとりとした感さうか
がえます。本当に痛くないんだと確実に実感で
きました。そして、固くリンリンに張っていたお
っぱいも、徐々にぼったりして軟らかい表情に変
わってゆく。うーん、これはすごい！

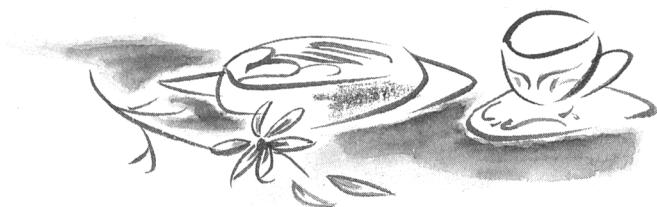
さらに私が最も感動と喜びを覚えたのは、先生
が手技をしながら、育児のこと、生活のこと、お
っぱいのことなどをとくとくとお母さんに話しか
け、お母さんも先生に質問したり、悩みまで打ち
明けていたことです。先生の手はやさしく、間断
なくおっぱいに触れ、お母さんとの対話は途切れ
なく続く——そんな光景に、おっぱいを介しての
2人の実にいい信頼の糸を感じました。

私は母子保健指導の真髄を見たのです。おっぱ
いのトラブル解消という正に産褥のお母さんの最
大の悩みを解決しながら、マンツーマンの指導を
する。これぞ真の母子保健なんだと。

初めはちょっと見るだけくらいの軽い気持ちで
訪れたのが、即日、いえ瞬間にすっかり虜になっ
た私でした。それ以来、寸暇を見つけての高岡通
いが始まりました。当時、分娩を介助していた私
は、前日、明日はお産がないと見定めると早朝か
ら車で高岡へ。一日中先生にへばりついて夕方帰
る。家に着くのは夜中。今思うとよく続いたもの
と我ながら感心するけれど、それ程に先生の手技
に魅せられてしまったのです。

現実のものとなった私の夢

先生との出会いによって、私は悩みつづけてな



かば諦めかけていた、母子保健指導のみで助産婦の営業が確立できると確信を得ました。

社会的に見ても核家族化が続くなか、母子保健指導は必然のものでありながら、開業として成り立つかを考えると大きな不安がありました。形のないものには無料の意識に慣らされている日本人。特に助産婦はその歴史から見ても、指導のみで料金を、しかも事業の運営に見合うものを得るのは難しい。

母子保健を事業として独立したいという夢を長年抱きながらも、踏み切れなかった私でしたが、桶谷式手技との出会いによって、その不安は見事に解消できたのです。

私の第二の助産婦人生の道が、はっきりと決まりました。お産をやめよう。昭和58年、25年間続けてきた分娩介助をやめ、武田助産院母乳外来として出発しました。お産をしていたという地盤のせいか、その移行はスムーズでした。確かに総収入は減少したものの、実収入はさほどの変化はない。

不謹慎な言い方かもしれないけれど、絶えず命と相対し、只のひとときも神経の休まることも、一夜としてゆっくり眠ることもなかった生活から解放されて、何十年ぶりに味わう普通の生活の素晴らしさに酔いしれる毎日でした。

赤ちゃんが吸啜できない、痛くて眠れない、母乳が出ない、数々のトラブルに毎日相対しながら肉体的には相当きついけれど、トラブルを解決できたとき、みるみる明るくなるお母さんに接するとき、無上の喜びが全身を通り抜けます。おぎゃーと無事生まれたときの感動と同じくらいの感動を味わうことも少なくありません。

桶谷の輪は広がって

先生との出会いからほぼ20年。先生に師事した助産婦は相当数にのぼりますが、確実に手技を正しく伝えたいとの先生のお考えで研修制度を確立し、認定制を取り入れ、その認定者は現在で250名を越えています。認定者で結成されている桶谷式乳房管理法研鑽会もほんの一步ずつではありますが確実に前進していると思います。

会員のすべてが、生涯桶谷先生の弟子として先生の技術の万分の一でも会得し、先生が絶えずおっしゃっているこの手技を助産婦の技術として普及するために真剣に研修しています。桶谷先生を中心に集まって1つになっている私たちの仲間、私はこんな素晴らしき仲間は他に例を見ないと思っています。

先生が高齢となられ研修に負担をかけるのが無理となったとき、東京に研修センターを作るために多額の設立資金を出しあった仲間。各地域で開業しながら、手技を介して確実に母子保健を実践し、各々の大きな支持を得ている仲間。阪神大震災では、ボランティア活動のために積極的に現地へ行っている仲間。被災者のお母さんと赤ちゃんのために無料で手技を提供しようと、その輪を各地に展開している仲間。私はその一員であることに大きな誇りを持って、明日もまた楽しくお母さんたちに接します。

次は、私の京大助産婦学校時代の同級生、澤村節子さんにお願いします。入学のときから何とユニークな人だろうと思ったのですが、今なおそれは衰えず、味のある人間性で人生を楽しく生きている彼女です。では澤村さん、よろしくね。